

# 「冷たいかき氷 どうぞ」

球磨地方在住の龍谷大柔道部OB・OG 現役部員の義援金で

「令和2年7月豪雨」で床上浸水などの被害を受けた熊本県人吉市の人吉別院（河村信昭輪番）で8月1、2日、地元・球磨地方在住の龍谷大学（＝宗門校、京都市伏見区）の卒業生らが「龍谷氷」と銘打ち、地域の人に かき氷を振る舞った。

ボランティアを行ったのは、同県湯前町の藤岡教頭さん(46、明導寺住職)ら同大柔道部のOB・OG 4人と同町少年柔道クラブの保護者。同大女子柔道部は、藤岡さんがコーチを務めた縁で15年前から毎年春に同町で合宿を行っており、町の人も学生らを応援してきた。今回の豪雨では災害直後から、藤岡さんや湯前町に現役部員や全国の卒業生から物心両面の支援が寄せられており、藤岡さんが預かった同部関係者の義援金でかき氷を振る舞うことにした。

「龍谷氷」は被災地の人々が復旧作業を終える時刻に合わせて、午後3時半にスタート。友達と連れ立った小学生や家の泥出しを終えた人などが続々と訪れ、汗を拭いながら冷たいかき氷に顔をほころばせていた

(写真上)。子ども4人と訪れた杉松紗織さん(34)は「コロナや水害で子どもが不安がちになっていたのでも笑顔が見られてよかった。京都の大



学生が遠く熊本に思いを寄せてくれたと聞いて、胸が熱くなった」と話した。

柔道部OBで同市と隣接する多良木町の中学校教諭・春木真さん(40)は「少しでも皆さんの活力の源になれば、との思いで参加させてもらった。柔道だけでなく、人としても強くあれ、というのが龍大柔道部で変わったこと。お世話になった球磨地域に恩返しがしたいと、後輩たちが主体的に支援してくれたことを誇らしく思う」と話し、藤岡さんは「学生たちは復旧ボランティアに駆けつけたいと申し出てくれていたが、コロナのため断念せざるを得なかった。その気持ちをOBとして何とかサポートしたかった。おかげで子どもたちの笑顔が見られた」と目を細めていた。

